

箱根ジオパーク構想～自然と歴史のクロスロード～ Design of Hakone Geopark

平田 大二^{1*}, 箱根ジオパーク推進連絡会事務局²

Daiji Hirata^{1*}, Secretariat of Hakone Geopark promote meeting²

¹ 神奈川県立生命の星・地球博物館, ² 箱根ジオパーク推進連絡会

¹Kanagawa Prefectural Museum (NH), ²Hakone Geopark promote meeting

1. 箱根ジオパーク構想の背景

神奈川県西部に位置する小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町の地域は、日本を代表する火山である箱根火山及びその周辺の豊かな自然を背景とし、貴重な歴史・文化を形成してきた地域である。人口は、約25万人。首都圏に近いこともあり、毎年国内外から3,000万人以上の観光客が訪れる日本有数の国際的な観光地でもある。

2. 箱根ジオパーク構想の理念

メインテーマを「北と南をつなぐ自然のみち 東と西をつなぐ歴史のみち」として、箱根火山及びその周辺地域の地質資源をはじめ、歴史的、文化的、生態学的資源を維持保全し、その価値を継続して高めていく。また、箱根火山を土台とした教育に資する活動やジオツーリズムの場として、国立公園、県立自然公園を中心とした区域であることを踏まえ自然環境の保全を前提とした環境整備を行う。持続可能な活動を実践することにより、箱根火山の持つ魅力を再認識したうえで教育・観光の新たな切り口として地域活性化を図る。

3. 箱根ジオパークの目標

【観光】観光振興の推進

ジオパークという新たな広域連携の仕掛けで、ジオサイトの保全に配慮した魅力的なストーリーを展開し、自然・歴史・文化を含めた地域の再発見を促すとともに、領域内の地質資源なども巡る滞在型観光を視野に入れた観光産業の振興を図る。

【地域振興】住民参加型地域振興の推進

地質と歴史など学術分野や、行政域を超えた連携により、多様な興味や関心を持つ人々が満足する資源を発掘・提供し、地質や地形と関係のある特産品との連携、ロゴマークの作成・活用より、地域振興を図る。

【教育】地域の総合的な学習の場の創出

箱根ジオパークを通して、地質を含めた自然環境の学習ニーズに応える環境を整備することにより、地域の歴史・文化についてもより理解が深まり、地域への愛着や安全に暮らせる環境への関心を高める。

4. 箱根ジオパークの特徴

1) フィリピン海プレートとユーラシアプレートとの境界域であり、しかも伊豆・小笠原島弧と本州弧が衝突する活動的な地域に位置する。

2) 60万年におよぶ長い活動の歴史を持つ箱根火山は、複雑な形成史を有する世界的にみてもユニークな火山であり、多様な火山地形や各種の溶岩・火山灰などの火山噴出物等がみられる「火山の博物館」である。

3) 箱根火山の恵みである温泉は、豊富な湯量と多様な泉質を誇り、歴史的にも由緒ある温泉地となっている。

4) 温暖な相模湾に面しており、海岸線の標高0mから箱根火山最高峰の神山1,438mまでの高低差がある起伏に富んだ地形に、様々な動植物が生息する。

5) 旧石器時代や縄文・弥生時代等の古代の人々の営みからはじまり、中世の源平合戦や曾我物語の舞台、戦国時代の北条氏による統治と豊臣氏の小田原攻め、江戸時代の城下町や東海道の宿場や関所、明治以降の保養地としてなど、長い歴史が残されてきた地域である。

6) 箱根火山の溶岩が良質な石材として小田原城や江戸城の石垣にも使われ、同時に高い石工技術を持つ石工も育んだ。良質な石材と高い技術は、小松石などに代表される地域の工芸品を生み出し、本地域における重要な産業の一つとなっている。

7) 神奈川県立生命の星・地球博物館や神奈川県立温泉地学研究所をはじめ、小田原城天守閣・歴史見聞館、小田原市郷土文化館、箱根湿生花園、箱根関所資料館、箱根町郷土資料館、湯河原町立美術館、真鶴町立遠藤貝類博物館、真鶴町立民俗資料館など、多種多様な博物館、美術館、研究機関等が充実している。

8) 首都圏から近く、来訪するための鉄道・バスなどの公共交通機関が発達している。地域内にはケーブルカー、ロー

プウェイ、遊覧船といった移動手段を楽しむ交通機関も充実している。

5．箱根ジオパークの推進運営体制

持続可能な活動を進めていくために、「箱根ジオパーク推進協議会」を設立する。構成団体は、1市3町と神奈川県のほか、県市町教育委員会や大学等研究機関、観光関連団体、民間事業者などを想定しており、地域住民との連携も含めた体制づくりを目指す。

6．箱根ジオパークの持続的な活動展開

1) 国立公園、県立自然公園を中心とした区域であることから、地域経済活性化と自然環境の保全の両立を図ることが必要である。

2) 箱根ジオパークが日本ジオパーク認定を受け、より多くの人々に箱根火山とその周辺地の魅力を情報発信することで、ジオパークの認知度を高める役割を担う。

7．今後の取り組み

当面は、平成24年3月の日本ジオパーク申請、および8月の日本ジオパーク認定を目指す。そのために平成23年4月には箱根ジオパーク推進協議会を設立し、基本計画と実施計画を策定する。さらに管理運営体制の充実と環境整備の推進を図り、ジオサイトツアーの開発を行う。

キーワード: 箱根火山, ジオパーク, 地域教育, 観光振興, 地域振興

Keywords: Hakone volcano, Geopark, local education, sightseeing promotion, local promotion